

報道各社御中

## 「遺児の生活と教育緊急支援金 15 万円」報道のお願い

2020 年 4 月 15 日

一般財団法人あしなが育英会会長 玉井義臣

あしなが育英会は、高校から大学院までの全奨学生 6,500 人に 15 万円の「遺児の生活と教育緊急支援金」を交付することを決めました。2 年生以上約 5,000 人には 4 月中に、1 年生約 1,500 人には奨学金口座の登録作業が完了次第、送金します。

新型コロナ感染拡大の影響を調べるため、本会は高 3 奨学生の保護者全員 533 人に「今困っていること」「今後不安なこと」「本会への要望」「政府への要望」を尋ねる緊急アンケートを実施し、わずか 10 日間で 281 人から回答（スマホ利用）を得ることができました（回答率 50.8%）。これは、私が半世紀に渡る遺児支援「あしなが運動」で、数十回行ってきた遺児関係調査の中でも類を見ない速さと回答率の高さです。

遺児家庭のお母さんたちの多くは、中小零細企業や飲食店などで派遣、契約社員、パートなど不安定な雇用条件で働いており、今回の事態で、「契約を切られた」「仕事がなくなった」などの回答が次々と届きました。「家族全員で路上生活をするしかない」「私が死んだら、子どもはどうなる」という胸をえぐられるようなものもありました。

そして、お母さんたちの本会や政府への要望は「とにかく、母子が生き延びるためのお金が必要です。一刻も早く助けてください」ということに尽きることが分かりました。今、遺児家庭支援に求められているのは、なによりも、送金のスピードなのです。



遺児の保護者アンケート（抜粋版）をお読みいただき、他のお母さんの声を知りたいとご希望がありましたら、ぜひ、当会広報部（[Kawamoto.a@ashinaga.org](mailto:Kawamoto.a@ashinaga.org)）へご連絡ください。また、会長・玉井のコメントをご要望の場合も上記メールアドレスまで遠慮なくご連絡下さい。もし私のコメントを報道していただけるなら、願わくばそこに、以下の遺児奨学生へのメッセージを加えていただければ、誠にありがたく存じます。

「奨学生諸君。コロナに感染しないように 2 時間ごとに手洗いしなさい。奨学金は心配しなくていいから。お母さんと君らが元気であることが、あしながの願いですから」

以上